

平成23年度 自 己 評 価 表

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	１．確かな学力の育成 ２．豊かな人間性の育成 ３．キャリア教育の充実と生徒の進路実現 ４．地域や産業界とのパートナーシップの確立
-------------------	--	----------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 (3)月									
評価項目		評価の具体項目		目標(年度末の目指す姿)		目標達成のための方策		経過・達成状況		評価		改善方策	
1	確かな学力の育成	①	授業改善と学力の定着	○学習内容の精選と教材・指導法の工夫により、わかりやすい授業に努め、生徒の基本的な学習習慣を確立させ、学力の定着を図る。 ○積極的な授業公開により、教科指導の研究と授業改善を行う。		○授業評価アンケートや基礎力診断テスト、校外模試の分析をとおして教材や指導法の工夫を図り、生徒の意欲喚起につなげる。 ○「5S」、「あさひ」の取り組みにより学習環境を整え、基本的な学習習慣の確立を図る。 ○各科・各教科で年1回以上公開授業を実施し、事後の反省会等を持つ。また、日頃から他の教員の授業を積極的に見学し授業改善に努める。		○授業評価アンケートを実施し、生徒の学習状況や理解度を把握するとともに授業改善に活かした。 ○基礎力診断テストを新たに実施し分析を行っているが、上位・中間層の成績が伸び、下位層の生徒数は減少した。生徒の意欲喚起につなげられ基礎学力の改善が同えた。 ○「5S」、「あさひ」の取り組みが定着しつつあり、学習環境も改善された。 ○各教科で公開授業が実施され授業改善に活かされた。		B	○授業評価アンケート等の分析に基づき、教材研究をより充実させ、生徒の理解度や意欲を高める工夫を引き続き行う。 ○基礎力診断テストの分析を深め、対応策等の有効活用に努める。 ○「5S」、「あさひ」の取り組みについてより一層の徹底を図る。 ○各種研修会への参加や公開授業の参観をとおして、引き続き授業力向上に向けての研鑽に努める。		
		②	主体的な学習態度と実践力の育成	○進路目標を早期に確立し、主体的な学習態度を育む。 ○各定期考査ごとに目標を設定し、自宅学習の習慣化を図る。 ○読書への興味・関心を喚起し、読書が習慣化するよう、引き続き「朝読書」の充実を推進する。		○生徒・保護者との面談をとおして、適性等を活かした進路目標の早期確立を図る。 ○小テストや課題の実施、資格・検定と関連付けた学習指導等により、学習習慣の確立に努める。 ○自宅学習時間調査を分析し、学習の習慣化につなげる。目標は、理数工学科では2時間、工業学科では1時間以上とする。 ○「朝読書」推薦図書の紹介や図書館での身近なテーマ展示を実施し、読書の習慣化を図る。		○個別面談指導の充実や補習、各種模試、進路行事等を実施する中で、学習目標を定め、自主的な学習習慣が浸透しつつある。 ○自宅学習調査結果では、全体的に学習時間が増加傾向にあり目標をほぼ達成したが、個別には極端に少ない生徒もある。 ○朝読書も定着し、図書館の貸出冊数も1年生を中心に大幅に増加した。			C	○補習や各種模試、進路行事の取り組みを引き続き進めるとともに、生徒・保護者との面談をより綿密に実施し、進路目標の早期確立を図る。 ○小テストや課題を日常的に課すなどして自宅学習を促すとともに、自ら学習できる力を養い学習習慣の確立に努める。 ○朝読書の習慣化と自主的な読書への取り組みをさらにすすめる。	
2	豊かな人間性の育成	①	互いを尊重する態度と社会性の涵養	○ハイパーQ-U調査等を実施し、望ましい集団づくりに心がけるとともに、支援を要する生徒を把握し適切な指導を行う。 ○日々の生活の中にある人権問題に対する認識を深め、人権を尊重する態度を育成する。 ○教職員自らが研修等をおとして自己を振り返り、学ぶ姿勢を持ち続ける。		○ハイパーQ-U調査やいじめアンケートの分析結果を、学級や個々の生徒の理解に活用する。 ○性教育、人権教育LHRを中心としながら人権意識を高める。 ○人権問題や異文化理解に関する具体的な学習内容を取り扱うとともに、教職員研修に努める。 ○教職員校外研修の情報提供を充実させる。		○人権教育、性教育の講演会等は、生徒達にとって自分を見つめ直し、他者との関係を見つめ直すよい機会となった。 ○人権教育校外研修「1人1研修」の取り組みが低調であった。 ○日々の教科指導はもちろん、講演会やアンケート調査などをとし、互いを尊重する態度の育成を図ることが出来た。		C		○人権教育、性教育等連携しながら学校全体での取り組みとする。 ○生徒との対話、声かけを大切にする。 ○教職員自らも各自研修、研鑽の場を積極的に持つよう努める。 ○個別の具体的な対応をさらに徹底させるため、全教職員の意志統一を図るとともに、生徒理解に努める。 ○面談やアンケートをとおし、生徒の現状把握に努める。 ○生徒指導について、迅速に対応できる体制づくりを引き続きおこなう。	
		②	健全な心身と社会貢献精神の育成	○「5S」、「あさひ」の取り組みを徹底し、自立に向けた「人間力」を育成する。 ○ボランティア活動等の参加を勧め、さらに他者への思いやりの心を育成する。 ○環境問題等、社会の変化に対応した教育の推進を図る。 ○部活動をはじめ生徒会活動に積極的に取り組ませ、中国大会・全国大会への出場者数の増加をめざす。		○SHR、各授業ごとに「あいさつ・作法」、「整理・整頓」等を徹底する。 ○テクノボランティアへの理解を深め、情報提供に努めて参加人数を増やす。 ○環境標語を募集、掲示し、生徒に啓発を行う。 ○部顧問と連携し、生徒の活動状況を把握し励ます。 ○生徒が部活動へ主体的に取り組めるように、教職員の支援体制を整える。		○「5S」、「あさひ」の取り組みが、徐々に定着しつつある。 ○欠席、遅刻が減少傾向にあるが、一部に基本的な生活習慣が身につけていない生徒がいた。 ○テクノボランティアの参加が増加した。 ○交通マナーは改善されたが、自転車運転について、傘差し運転がまだ散見された。 ○部活動では、熱心に取り組む生徒が多く見られた。			B	○「5S」、「あさひ」の取り組みについてまだばらつきがある。趣旨を機会ごとに説明し、自発的な取り組みに結びつける。 ○意義を確認しながらテクノボランティアの取り組みをさらに推進する。 ○関係分掌と連携し、ボランティア活動の参加を支援する。 ○自転車運転指導について、引き続き指導が必要である。	
3	キャリア教育の充実と生徒の進路実現	①	専門的な知識・技術の習得	○進路意識を高め、国家資格・検定等の取得者数の増加をめざす。 ○ものを作る喜びをとおし、興味関心を持たせ、学ぶ喜びや他人を思いやる心などの真摯な態度を養う。 ○専門学科と連携し、企業との事業の充実と、生徒の知識や技術の習得を図る。		○各科・各教科が推奨する資格・検定取得に向けて勉強会・補習を実施し、積極的に取り組ませる。 ○「高校生ものづくりコンテスト」、「工業系競技大会」への参加をいっそう奨励する。 ○「企業見学会」、「インターンシップ」、「鳥工版デュアルシステム」等を実施し、それらをとおして、生徒のスキルアップに取り組む。		○国家資格・検定ガイドブックを作成し資格取得の奨励と指導が実施できた。 ○学年及び各科・各教科でそれぞれ資格取得に向けた補習等を実施し、概ね合格者数が増加した。 ○「高校生ものづくりコンテスト」への取り組みがあまり振るわず、中国・全国大会への出場は減少した。 ○インターンシップ、企業見学、鳥工版デュアルシステムを実施し、実践的な技術や技能に触れることができた。		B		○資格取得が進路実現に大きく影響することを認識させ、各種資格取得に向けた補習等を継続して実施する。 ○「高校生ものづくりコンテスト」への参加者を増やすとともに、早期取り組みを行い指導を充実させる。 ○インターンシップ、企業見学、鳥工版デュアルシステムともに受け入れ企業数を確保する。	
		②	職業意識の育成と進路指導の徹底	○「企業見学会」や「インターンシップ」などをとおして、職業意識や勤労観を養うとともに、自らの生き方をじっくり考察させ進路選択や学習意欲を喚起させる。 ○引き続き、就職内定率100%を実現する。 ○生徒一人ひとりの思いや夢を大切に、自己実現につなげる進路指導を行う。		○進路指導部と学科が連携して各種行事・LHR等を行い、面接指導・志望企業の相談やアドバイスをを行い進路意識が高まるよう指導する。 ○進路説明会・模試・諸検査および情報提供等を行い、生徒の思いや願いをしっかりと聞きながら、個の進路に応じた適切な指導を行う。 ○生徒の進路目標実現のために必要な「学力」および「人間力」の育成を図る。		○企業見学やインターンシップを実施し、企業との協力した指導により職業観・勤労観・進路意識の高揚を図ることができた。 ○面接指導を生徒個々の進路に応じて全職員で実施したが、生徒の進路意識の高揚はもう一歩であった。 ○進路LHR・進路ガイダンスなどを積極的に行い、生徒の進路選択に役立った。 ○鳥工「ものづくり講演会」を校外の施設で実施し、技術者としての在り方を多く学べた。			C	○インターンシップ・企業見学会などの事前・事後指導を徹底する。 ○面接カードを恒久的なものにし実践につなげていく。 ○校内版「進路の手引」を活用しながら、生徒の実情に応じた市販の進路ノート導入を検討する。 ○3年生一人ひとりの進路指導（面接指導・小論文指導・進路相談など）に、全職員でたたるシステムを検討する。 ○ものづくり講演会において、生徒が関わるように工夫する。	
4	地域や産業界等とのパートナーシップの確立	①	地域や産業界との連携強化	○産業界が求める人材像や企業人としての在り方を把握し、職業観・勤労観の啓発等を企業と連携して指導し、地域の担い手となる人材を育成する。 ○地域の一員としての学校の在るべき姿を検討し、教育内容の改善につなげる。		○「インターンシップ」等の事前指導を実施するとともに、終了後に企業との反省会を開催することにより、現状把握や今後の行事の在り方等について協議し、情報を共有する。 ○「社会人講師」の導入、「先輩を囲む会」、「鳥工産業教育懇話会」、「ものづくり講演会」等で連携を強化する。 ○津ノ井地域懇談会を開催し、地域との連携を強化する。		○インターンシップの事前指導は、全体・科別と2回実施し、目的や取り組み態度について確認し、徹底を図った。 ○インターンシップ反省会では、多くの企業より「あさひ」について概ね良好との感想をいただいた。また、意見交換、情報交換することで連携が密になった。 ○「鳥工産業教育懇話会」、「ものづくり講演会」、「社会人講師」、「先輩を囲む会」等を実施した。技術者としての在り方、プロの技の伝授、指導力の向上に繋がり連携を深めることができた。 ○「津ノ井地域懇談会」の開催により本校の教育方針を広く地域の方々に理解していただいた。		A		○今年度改善した項目について定着を図る。 ○外部からのアドバイスに対して実現できるような環境と体制を早期に整える。 ○企業、地域との協議結果を積極的に取り入れる。	
		②	開かれた学校づくりの推進	○HPを積極的に活用して、中学生・地域・保護者対象の情報発信に努める。 ○地域、小学校、中学校等に科学や英語授業を実施し、理科の楽しさや国際理解の推進に努め、理数工学科への理解を深めてもらう。 ○中学生、保護者を対象に、ものづくりの楽しさや完成したときの達成感等を体験する機会を設け、工業学科の取り組みについて理解を深めてもらう。 ○地域と連携した貢献活動に積極的に参加する。 ○保護者参加型の行事をとおして、保護者との連携を密にし、生徒の指導・支援を充実させる。		○学校行事、進路、部活動、資格取得、テクノボランティア活動等の最新情報を適宜更新する。 ○理科や英語などの出前授業を行う。 ○鳥工課題研究発表会等を実施する。 ○「桜ヶ丘グリーンゾーン活動」、「津ノ井地区文化祭」等へ参加する。 ○公共施設、独居老人宅等での照明器具の掃除・点検、簡単な修理、窓ふき等のテクノボランティア活動を実施する。 ○科別PTAなどPTA行事をとおして積極的に学校の教育活動を公開し、保護者との連携を密にする。		○HPで学校行事、生徒会活動等、適宜更新し、情報発信することができた。 ○エキスパート教員による中・高への出前授業、小・中学校での講義、実習・実験等、充実した取り組みができた。 ○「鳥工課題研究発表会」では、企業、中学校、保護者等に案内文書を発送し、課題研究の取組みを広くPRした。 ○「桜ヶ丘グリーンゾーン活動」、「鳥取県技能祭」、「津ノ井地区文化祭」等に参加することにより、地域や技能士会等と連携をとり推進することができた。 ○「テクノボランティア」では、36名の参加があり、一人暮らしの高齢者住宅3軒で活動した。福祉の心を育て、社会の一員としての自覚を深める活動ができた。 ○「PTAだより」を地域へ回覧配布し、PTA活動の一環を情報発信することができた。			A	○分掌・学年・学科等、学校全体がHPの更新を推進する。 ○生徒主体による出前授業の企画を検討する。 ○地域との協議結果を積極的に取り入れる。 ○各催しに出品する展示物や内容が一新できるように更に創意工夫する。	

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ:挨拶・作法・人の話を聞く

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分「40%程度」 E:目標・方策の見直し [20%程度]